

37.5.10

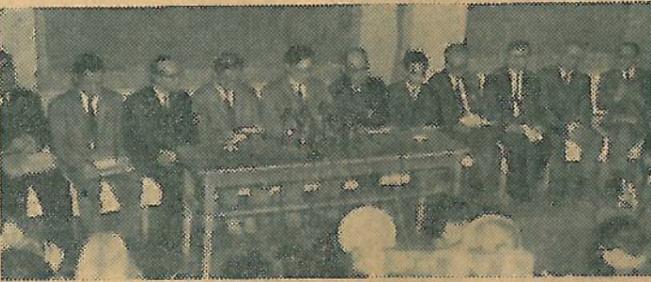
核禁止協定が急務

憲法第九条に新たな意義

科学者京都会議が声明

声明はこの会議が人類の破壊をさけるため核兵器の絶滅を呼びかけたラッセル・アインシュタイン声明の精神に共感して開かれたこと

【京都】日本の知性を代表する学者、知識人を集めてさる7日から開かれていた科学者京都会議は9日午後5時すぎ、3日間の討議を終え、出席者全員が京大基礎物理学研究所で記者会見して声明を発表した。



声明を発表する科学者京都会議の出席者

禁止の早期締結が必要である、なと次の六点を主張している。
① 科学の成果は人類の福祉を平

湯川秀樹(京大教授) 朝永振一郎(東京教育大教授) 坂田貞一(名古屋大教授) 湯田重人(名古屋大教授) 湯田重人(一)

和のためのみに役立つ。核兵器の保持は戦争誘発の危険を増すだけ。国際間の問題解決の手段にはならない。核実験による放射能汚染の人体への害は恐るべき事態を招きつつあり、実験禁止協定の一日も早い締結が必要である。② 真の問題解決は核兵器をなくし全面軍縮、さらに軍備撤廃の実現以外にない。③ 軍縮と経済との結びつきには明るい見通しがもてる。④ 戦争と軍拡競争の時代を終え完全軍縮の平和な時代をへることが人類の責任である。
この会議は「科学者京都会議」と正式に名づけて、湯川、朝永、坂田の三博士が懇話会会長を兼ねられ、これから時期に応じて適宜な形で同じ精神の会議を開くことに決めた。科学者京都会議に出席して声明に署名したのは次の十二氏。出席予定だった京大京大長は都合で欠席した。

湯大教授 三宅泰雄(東京教育大教授) 高沢俊郎(東京教育大教授) 湯原武夫(京大教授) 大仏次郎(作家) 田島英三(立教大教授) 田中寅次郎(評論家) 福島要一(日本学術会議会員) 谷川徹三(哲学者)

c092-015-018